

新兵庫県立こども病院

- 総合周産期医療センター 83床 (NICU 21床、MFICU 6床)
- 集中治療部門の強化: ICU 8床、SCU+PICU 8床
 - 救急ICU 11床、HCU 28床 (集中系病床 54床)
- 手術室・集中治療室・救急の同フロアへの集約
- 広域小児救急の強化: ER型、屋上ヘリポート
- 支える医療の強化: 在宅支援病棟、緩和ケア病室
- 感染対策の強化: 感染病棟、

● 病床数:	290床(266)
● 常勤医師:	150人
● 看護師:	600人
● 診療科:	27科

Bio-Clean Room 4 室

- 感染科、臨床遺伝科、リハ科



全国集計(小児血液がん学会)

2012～2014年 3か年集計(新規患者)

【造血器腫瘍】

1	埼玉小児医療センター	144
2	兵庫県立こども病院	90
3	大阪市立総合医療センター	85
4	九州大学病院	78
5	成育医療センター	76
	⋮	

【固形腫瘍】

1位	成育医療センター	131
2位	兵庫県立こども病院	125
3位	九州大学病院	101
4位	筑波大学病院	94
5位	埼玉小児医療センター	89
	⋮	

併せると

1	埼玉小児医療センター	233
2	兵庫県立こども病院	215
3	成育医療センター	207
4	九州大学病院	179
5	大阪市立総合医療センター	164

新兵庫県立こども病院

- 小児がん医療センター

- 病棟の清潔化(:手術室レベル)
- Bio-Clean Room 4 室
- 緩和ケア病室の整備
- プレールーム、院内学級
- 外来化学療法室
- 新陽子線治療センター(2017年度開院)との連携



集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

病院名：兵庫県立こども病院

1) 多職種カンファレンス

①病棟カンファレンス(週1回)

血液・腫瘍内科医師、精神神経科医師、看護師、薬剤師、検査技師、臨床心理士など

②腫瘍カンファレンス(Tumor Board)(週1回)

血液・腫瘍内科医師、放射線科医師、病理診断科医師、関連外科系各科医師など

③にこにこサポートチームカンファレンス(月2回)

血液・腫瘍内科医師、精神神経科医師、麻酔科医師、看護師、薬剤師、臨床心理士など

④小児内科全体カンファレンス(毎日)

新生児科を除く小児内科系全科医師



腫瘍カンファレンス



小児内科全体カンファレンス

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

病院名：兵庫県立こども病院

2) 緩和ケアの整備

血液・腫瘍内科医師、精神神経科医師、麻酔科医師、看護師、薬剤師、臨床心理士などで構成されるにこにこサポートチームを中心として、緩和ケアの提供を行っている。終末期の特に慎重で手厚いケアが必要な事例については、1)③の定期的なカンファレンス以外にも適宜検討会を開いて介入している。

チーム介入小児がん患者数：平成24年 7件
平成25年 14件
平成26年 11件

また骨髄穿刺や腰椎穿刺等の処置を、麻酔科医によるセボフルレン吸入麻酔で病棟にて行っている。これは年間600件以上に及び、多数の小児がん患児の疼痛緩和に寄与している。



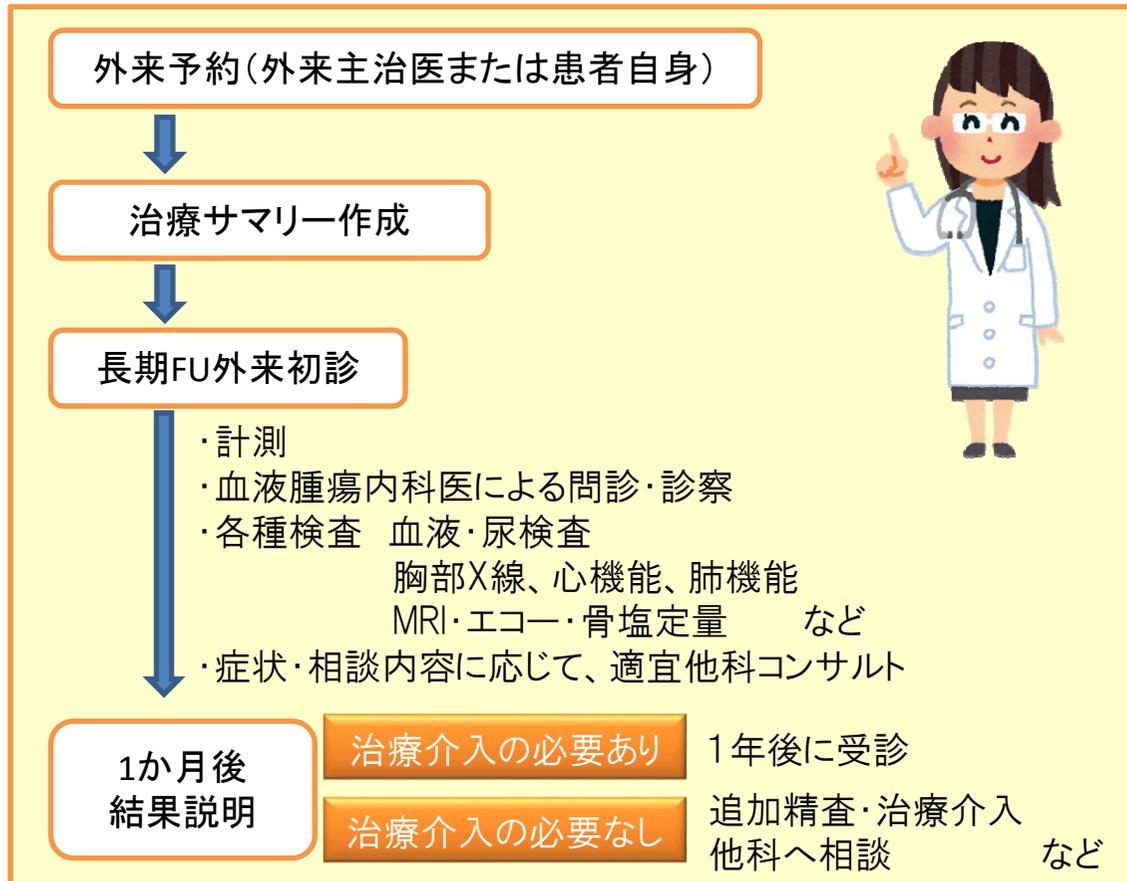
麻酔科医による病棟麻酔

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

3) 長期フォローアップ外来

病院名：兵庫県立こども病院

長期フォローアップ外来は毎月第1・2月曜日午後1時に枠を設け、造血幹細胞移植後、または治療終了後5年以上経過した患者を対象に、おもに血液腫瘍内科、代謝内分泌科でフォローを行っている。患者の症状や相談内容に応じて、循環器内科や外科系各科の併診も可能である。通常外来枠でも相当数の患者をフォロー中であるが、順次長期フォローアップ外来に移行中である。
新規長期FU外来患者数：平成26年5例、平成27年5例
長期FU外来のながれ



* 長期FU外来の問題点 *

- ・ふだんの定期フォロー外来は受診していても、そこから長期FU外来への移行例が少ない。
- ・小児慢性特定疾患の助成がきれており、医療費の問題からフォローできる検査項目に限りがある。
- ・性腺機能の評価は可能だが、フォローのみ。
妊娠出産を考える際には泌尿器科・産婦人科への紹介が必要
- ・復学・社会復帰に際しての周囲の理解不足に対する対策

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

病院名：兵庫県立こども病院

4) 地域連携

①兵庫県立粒子線センター(たつの市)と連携し、粒子線適応のある固形腫瘍症例について平成27年以降、以下の5例の照射を施行している。また平成28年2月より2歳の横紋筋肉腫症例を照射開始予定である。

8歳 上衣腫

19歳 上衣腫

7歳 上衣腫

6歳 胸椎脊索腫

10歳 脊髄MRT

②兵庫県内の小児がん診療病院との連携の強化

・毎年6月に兵庫県小児がん診療病院連携会議を開催している。

・また毎年3回、以下のようにそれぞれ独自性を有した研究会を開催して、小児がん診療病院との連携の強化を図っている。

6月の兵庫県小児血液腫瘍症例検討会は小児血液腫瘍科医による症例検討会

11月の兵庫小児血液懇話会は外部の講師を招いての講演会

1月の兵庫県小児Tumor Boardは放射線科や病理科の医師を交えた画像中心の多職種
の症例検討会である。

③兵庫県がん診療連携協議会に参加して、小児がん診療病院のみでなく県内の成人領域のがん拠点病院とも定期的に情報を交換している。また、広島大学を中心に行われているTV会議『小児がん中国・四国ネットワーク会議』にも参加し、中四国の施設との連携も図っている。